

ティーチング・ステートメント

所属 保健医療学部看護学科

名前 大内 潤子

作成日 2024年2月26日

【責任】

医療保健学部看護学科に所属し、専門領域である老年看護学を中心とした教育・研究活動を行っている。教育活動としては主に、老年看護学関連の科目（老年看護学概論、老年看護学援助論、老年看護学援助技術論演習、老年看護学実習、生活者を知る実習）に加えて、看護学研究法や国際看護など、領域横断的な科目を教授している。そのほか、大学院の授業、大学院生の研究指導、学部卒の卒業研究の指導、就職支援センター主任、オープンキャンパス内での学科紹介をしている。

【理念】

私の理念は3つである。1つ目は、学ぶことによって、世界が広がったり、ものごとの見方が転換したりするような楽しさを学生が体験できる教育を提供したいということである。これは、本来、学ぶことは、その人自身の世界を広げ、既成概念からも開放されるような自由を得る喜びの体験であると思うからである。

2つ目は、急激に変化する社会のなかで、自ら思考し、問題解決に能動的に取り組める人を育てたいということである。学生が単に知識を詰め込むだけではなく、身につけた知識を使って、思考し、自ら問題解決に取り組む力を育てたいと考えている。

3つ目は、自分と他者を尊重できる人を育てたいということである。ジェンダーや年齢、障がいやその他の特性などに関わらず、自分を愛し、他人を尊重できる人が医療・看護、そしてこの社会において重要と考えているからである。

【方針・方法】

上記の3つの理念のうち、1つ目に対応する、「方針1：学生の興味関心を広げる」、2つ目の理念に対応する「方針2：学生が思考し意見を表明する場面を増やす」と「方針3：学生が学修しやすい環境を整える」、そして3つ目の理念に対応する「方針4：学生の個性を尊重する」「方針5：異なる世代や文化を持つ人と関わる場を設ける」という4つの方針に基づいて教育を行っている。

方針1. 学生の興味関心を広げる

1. 教科書以外の資料（論文や書籍）を紹介したり、一部配布したりする。
2. より発展的なことを学びたい人のための資料（関連する他分野の内容を含めて）を提供する。
3. 海外で活躍している人物や自らの海外体験、国際的な活動ができる場の紹介を行う。
4. 学生が看護およびその周辺の学問領域の学会や地方会に在学中や卒後に参加できる機会を提供する。

方針2. 学生が思考し意見を表明する場面を増やす

1. 授業中に学生の意見を求めたり、学生同士の議論の場を設ける。
2. まず、学生に課題に取り組んでもらい、その結果を授業内で議論し（反転学習）、それを事後学習につなげる。
3. 授業後にUNIPA上に、コメントや質問を入力できるようにする。

4. 臨床現場に近い状況を作り、自らその場で行動を組み立て、実践する課題を行う。

方針3. 学生が学修しやすい環境を整える

1. 学生の意見を尊重し、間違っただけを責めない。
2. 発言や課題において、良かった点について具体的に学生に伝える。
3. 座学での授業におけるグループワークや個人作業において、何をやるのか、アウトカムは何かを明確にする。ただし、アウトカムに向かう道筋は、学生たちの創意工夫が反映されるようにしておく。

方針4. 学生の個性を尊重する

1. 演習や実習、就職支援センター主任としての指導においては、性格、思考のパターン、コミュニケーション能力など、学生の特性に合わせて個別に指導する。
2. 学生個別の特性に合わせて、課題などを工夫する（グループワークが必須でなければ、個人ワークに切り替えるなど）。

方針5. 異なる世代や文化を持つ人と関わる場を設ける

1. 授業のなかに、多世代と交流する場を取り入れる。
2. 学生が異文化を擬似的に体験したり、実際に異文化を体験できる場を提供する。

【成果・評価】

- ・ 論文や追加資料などを提供したが、活用されたかどうか、調査していないため資料がない。
- ・ 授業アンケートの各設問において、高評価を示す5または4の回答が9割前後であった。特に、「課題について良かった点をフィードバックしてもらえたのが良かった」とのコメントがあった。
- ・ 国際的な活躍をしている人物や、卒業後さまざまな場で活躍している卒業生の講演などを通じて、「視野が広がった」とのコメントを多くもらった。
- ・ 学生が、卒業研究を学会で発表する機会を得た（2022年度、2023年度）。また、2023年度卒業生の卒業研究は、最優秀賞を受賞した。
- ・ 地域の高齢者と学生が交流する場を複数回に渡って設け、それまでほとんど関わりがなかった世代に対しても「理解が深まった」「よい経験になった」とのコメントを多くもらった。

【目標】

- ・ 卒業研究を学会で学生とともに発表する（2024年度中）。
- ・ 引き続き、外部からの講師や地域住民を招き、交流しながらの授業を実施する（4月に授業の一貫として地域の高齢者を招き「スマートフォン講座」を実施する。日本で活躍する看護師やNGOに所属し海外で活躍する看護師をゲストスピーカーに迎え、看護師の多様な活躍の場を紹介したり、文化的な背景の異なる医療職者と協働することについて考える場を設ける）

- ・ 評価に活かすため、学生からの授業に関するフィードバックのコメントを電子データとしてアーカイブするとともに、データを集約する（2024年度中）。
- ・ 学生が地域に出て実際の課題（世代間交流の希薄さ、高齢者の社会的孤立など）に取り組む授業を行う（2024年度中）。

TS 更新の目的

- ・ 職位や役割などが変更となったことから、それらに見合う TS であるかどうかを見直す必要がある
- ・ これまでの教育経験に基づき、新しい視座が自分のなかに生まれてきた可能性がある